第 24 回雲南懇話会資料

高校生に夢を！ 夢舞台／崑崙の未踏峰へ

――ヤズィックアグル峰(6770m)初登頂――

信濃高等学校教職員山岳会　大西　浩

BC から望むヤズィックアグル峰（6770m）

1981 年、長野県下の高校山岳部の顧問たちが集まり、信濃高等学校教職員山岳会（信高山岳会）が誕生しました。それ以来、私たちは「高校生に夢を」をテーマに山岳部の生徒とともに安全で楽しい登山を楽しむための、技術向上と顧問の交流、生徒の育成を主眼に高体連登山専門部とも密接に関わりながら活動してきました。発足当初より長野県山岳協会に加盟し、その傘下で、日中合同登山技術研修会や長野県高校生訪中登山交流会、アリューシャン登山自然調査隊、カシタシ主峰（セリッククラムムスターグ）登山隊などイベントを通して年代のつながりや内外の岳人とのつながりをつくってきました。

会の創立 30 周年ならびに長野県山岳協会 50 周年の節目の年にあたる 2011 年に、私たちは「高校生に夢を」という信高山岳会の原点に立って、その精神を共有できるかつて私たちが育てた教え子とともに、西部崑崙山域に、気高くそびえる未踏の阿克沙衣（アクサイ）山群主峰に、挑戦することにしました。この遠征を通じ、私たち自身が夢を育み、夢に挑み、得たものを、今後の高校登山の活動に反映させ、さらに多くの子どもたちに夢を語り続けたいという思いからです。

しかし、この計画が実現するまでには、いくつもの難関がありました。未踏峰であるため、2009 年に偵察を計画しましたが、出発を半月後に控えた 2009 年 7 月 6 日に新疆では大規模な民族対立が発生、急遽訪中を断念せざるを得ませんでした。さらに 2010 年には新疆に入ることはできたものの、アプローチの新蔵公路が大雨の影響であちこちで決壊し、BC 予定地の 170km ほど手前で足止めになり、偵察はおろか目的の山を目にすることもないまま帰国することとなりました。しかし、そのことは一方で、夢を持ち続けることが、夢を実現するための最も重要な条件であるということを裏付けることともなりました。

隊は会長の松田大を隊長とし、会の外からも趣旨を理解・共有していただける 2 隊員を補強、後援団体である信濃毎日新聞社からも、記者派遣をしていただけることとなり 6 名（別表参照）で実施することとなりました。ところが、準備万端、計画もすべて整った 4 月初旬、昨年通行止めとなった新蔵公路の全面改修工事による立ち入り日の制限というまたしても予期せぬニュースが届き、タクティクスの全面的な見直しを迫られるなど、最後まで振り回された末の新疆入りとなりました。

さて、登山隊は 6 月初旬には隊荷を発送し、7 月 16 日に日本を出発。ウルムチを経て入ったカシュガルで食糧調達などの最終準備を行ないました。21 日にイエチョンから新蔵公路へと車を進め、22 日には待望の BC（4530m）に入ることができました。翌日から早速登山活動を開始、ポーターを使った ABC（5030m）への荷上げが完了して全員で ABC に入るはずの前日の 25 日、山内隊員に高山病が疑われる症状が現れました。一番近い病院まで 500km、そこに行き着くまでに 5000m 近い峠を二つ越えねばならないというロケーション、隊付きドクターの不在など総合的な判断から、山内の登山続行は危険であると判断、荷上げを終えて帰るポーターとともに山を去るという結論を出さざるを得なかったのは大変残念なことでした。

隊　員　名　簿		
隊務	氏　　名	所属
隊長	松田　　大	信高山岳会 松本県ヶ丘高校教諭
秘書長・登攀隊長	大西　　浩	信高山岳会 池田工業高校教諭
輸送梱包・医療	久根　　敏	信高山岳会 高遠高校教諭
装備	山内　一成	大町山の会 大町北高校山岳部 OB
報道・気象	佐藤　　勝	成蹊大学山岳部 OB 信濃毎日新聞社
食糧・環境	三戸呂拓也	明治大学炉辺会 大町高校山岳部 OB

結果ここからは、5 人での活動となりましたが、登山のキーとなったのは荷上げとそれを可能にする C1 への登路の確保と、頂上直下の雪壁の突破でした。26 日 ABC 上部偵察隊が氷河末端のセラック帯を回避し、氷河の脇を詰め、5400mの地点でヤズィックアグル南氷河に乗り、そこから右股氷河との合流点まで進み、C1（5620m）の目処を立てました。27、28、29 日の 3 日間で C1 への荷上げを完了しました。休養をはさみ、31 日には C1 入りし、その日のうちに本峰の南東面に回り込み、南東氷河の急斜面に荷上げのためにフィックスドロープを 6 本のばして荷上げ路を確保しました。翌 8 月 1 日には、荷上げを並行しながら 5900m のプラトーまで、フィックスドロープをさらに 5 本のばし、クレバス帯の続く広大な氷河を詰め、C2（6060m）までの荷上げを完了することができました。ここまで来ると頂上はすぐ目と鼻の先に見え、ようやく登頂の二文字が現実のものとして実感できるようになってきました。

これまで 29 日に氷河上で雪が降ったほかは、概ね天候が安定しており、順調にルートが延びていきました。隊員の中には高所順応でやや苦労している隊員がいるものの、それは想定の範囲であり「慢々」で動くこととお互いに口に出し合い、フォローするというルールを徹底して乗りこえていきました。タクティクスではこのあと順応のための C2 往復ということを考えていましたが、隊員の状況、天候の予想、C2 往復による体力消耗と順応の兼ね合い等を総合的に判断し、一日の休養を挟み一気にアタックすることを決めました。

こうして、翌日のアタックを想定して、3 日 C2 にはいりました。その日のうちに頂上稜線までの急な斜面のルート工作（フィックス 3 本）をしてアタック体制を整えました。4 日は予想通りの無風快晴。6 時に 25 分に C2 を出発、前日のフィックスを使って 1 時間で頂上稜線に到達しました。10 時 30 分には頂上から標高差 300m に到達。ここからが、最後の正念場となりました。傾斜 60 度を超える壁、場所によってざくざくの氷の下の堅い氷、支点のとれないふわふわの雪、また腰までのラッセル、ナイフエッジ、わずか 300m を登るのにロープ 6 ピッチ、時間にして 4 時間を要しました。そして、傾斜が落ちて南側に回りこみおよそ 200m 進むと、その先に私たちの立っているところより高い場所はどこにもありませんでした。

山頂に旗を掲げる 5 人の隊員たち

C2 を出ておよそ 9 時間、新疆時間の 8 月 4 日午後 3 時 17 分、青空の下に 360 度の視界が広がり、私たち 5 人は周囲のどの山よりも高い地点で長野県山岳協会旗、信高山岳会旗、そして山内隊員から託されたミトンを掲げ、初登頂の幸せを噛みしめました。山岳協会の多くの方の応援に、天候も味方にして、帰らざるを得なかった山内も含め 6 人のチームワークで登った山。白い衣裳をまとった端正なヤズィックアグルは私たちにとって、最高の夢の舞台でした。

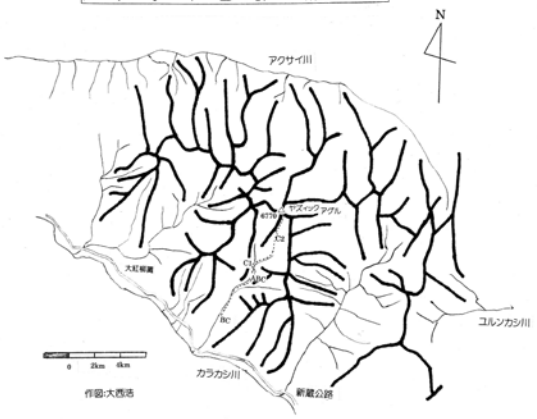
日　程

2011年7月16日から8月20日（36日間）

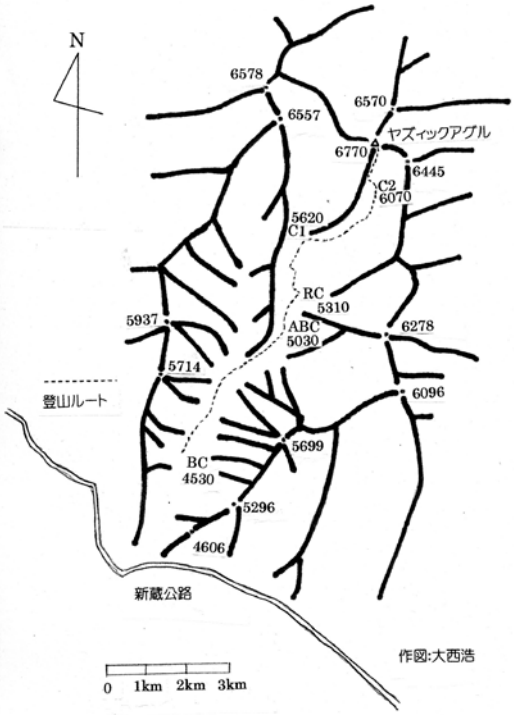
日次	月　日	曜	行　　動　　概　　要	備　　考
1	7月16日	土	名古屋→北京→ウルムチ	
2	7月17日	日	ウルムチからカシュガル	情報収集
3	7月18日	月	カシュガル	隊荷受け取り
4	7月19日	火	カシュガル	買い出し
5	7月20日	水	カシュガルからカルギリク（イエチョン）	買い出し
6	7月21日	木	イエチョンからマザー	
7	7月22日	金	マザーからＢＣ	ＢＣ開設
8	7月23日	土	ＢＣ←→ＡＢＣ偵察（ＢＣ）　ポーター荷上げ	登山活動開始
9	7月24日	日	ＢＣ←→ＡＢＣ（ＢＣ）　ポーター荷上げ	
10	7月25日	月	ＢＣ→ＡＢＣ（ＡＢＣ）　　ポーター荷上げ	ＡＢＣ入り
11	7月26日	火	ＡＢＣ←→Ｃ１偵察（ＡＢＣ）	
12	7月27日	水	ＡＢＣ←→Ｃ１荷上げ（ＡＢＣ）	
13	7月28日	木	ＡＢＣ←→Ｃ１荷上げ（ＡＢＣ）	
14	7月29日	金	ＡＢＣ←→Ｃ１（ＡＢＣ）	
15	7月30日	土	休養（ＡＢＣ）	
16	7月31日	日	ＡＢＣ→Ｃ１、上部偵察（Ｃ１）	Ｃ１入り
17	8月　1日	月	Ｃ１←→Ｃ２荷上げ（Ｃ１）	
18	8月　2日	火	休養（Ｃ１）	
19	8月　3日	水	Ｃ１→Ｃ２、上部工作（Ｃ２）	Ｃ２入り
20	8月　4日	木	アタック（Ｃ２）	アタック
21	8月　5日	金	Ｃ２→Ｃ１→ＲＣ荷下げ（ＲＣ）	Ｃ２撤収
22	8月　6日	土	ＲＣ←→Ｃ１荷下げ（ＲＣ）	Ｃ１撤収
23	8月　7日	日	ＲＣ←→ＡＢＣ荷下げ（ＲＣ）	
24	8月　8日	月	ＲＣ→ＡＢＣ荷下げ（ＡＢＣ）	ＲＣ撤収
25	8月　9日	火	ＡＢＣ→ＢＣ（ＢＣ）	
26	8月10日	水	ＢＣ←→ＡＢＣ（ＢＣ）	ＡＢＣ撤収
27	8月11日	木	ＢＣ→三十里営房	ＢＣ撤収、登山活動終了
28	8月12日	金	三十里営房→マザー→プサ	
29	8月13日	土	プサ→カルギリク（イエチョン）	
30	8月14日	日	カルギリク（イエチョン）→ホータン	
31	8月15日	月	ホータン	
32	8月16日	火	ホータン	
33	8月17日	水	ホータン→ウルムチ	
34	8月18日	木	ウルムチ←→トルファン	
35	8月19日	金	ウルムチ←→南山牧場	
36	8月20日	土	ウルムチ→北京→日本	

クンルン山脈概念図

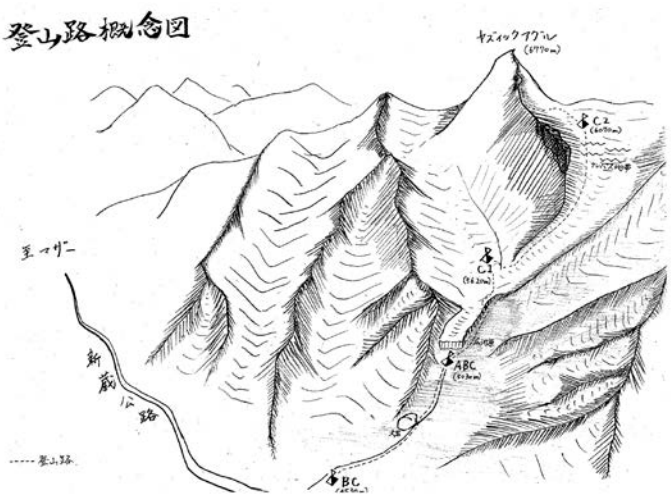
アクサイ山群概念図



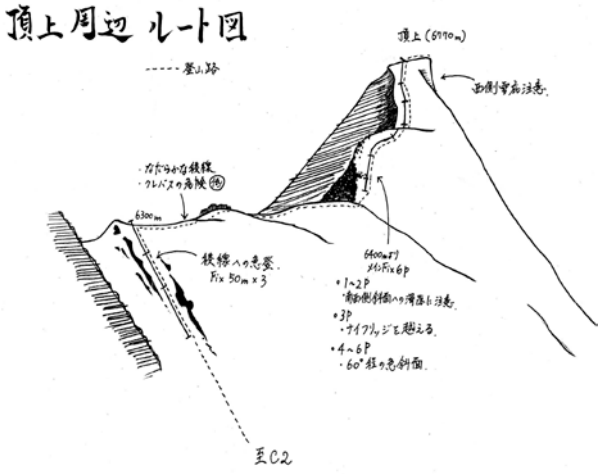
ヤズィックアグル峰概念図

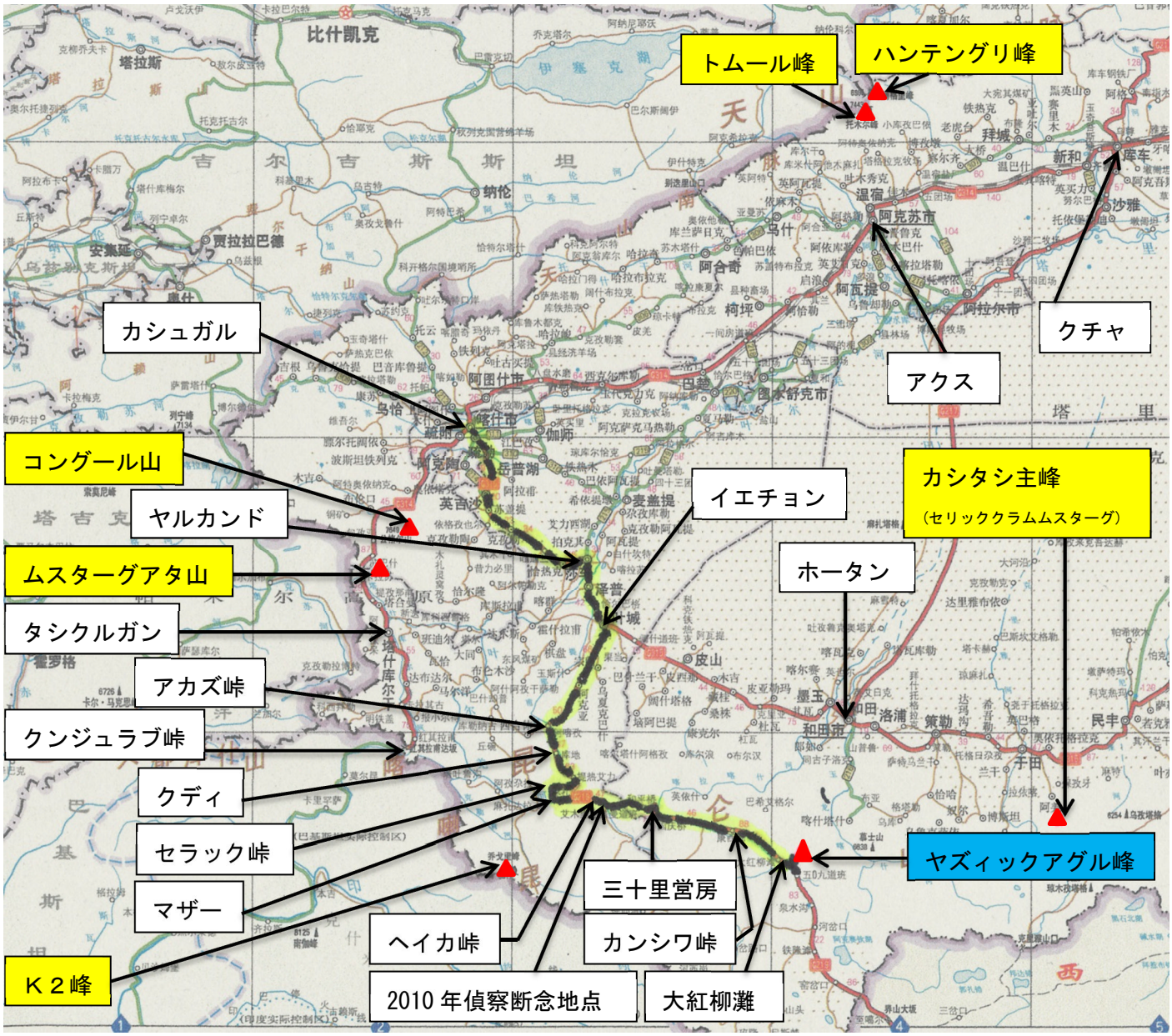


登山路概念図



頂上周辺ルート図




トムール峰
ハンテングリ峰
カシュガル
クチャ
アクス
コングール山
ヤルカンド
ムスターグアタ山
タシクルガン
アカズ峠
クンジュラブ峠
クディ
セラック峠
マザー
K２峰
イエチョン
カシタシ主峰
（セリッククラムムスターグ）
ホータン
ヤズィックアグル峰
三十里営房
ヘイカ峠
カンシワ峠
2010 年偵察断念地点
大紅柳灘